

司書合格体験記

文学部国文学科 野原 隆之介

私は平成28年に京都府立図書館から内定をいただき4月から働き始めています。また大学を卒業したのは平成27年でその間は京都市立中央図書館で臨時職員として働いていました。それらを含めて自分なりの体験記を書かせてもらおうと思います。

司書に憧れを持つきっかけとしては大学2年生の時になんとなく履修していた司書課程の講義で図書館というものを知ったこと、なんとなく図書館でアルバイトを始めたら面白かったことなどの要素があり図書館と司書に興味を持つようになっていました。目指すきっかけになったのは同志社大学図書館情報学研究会 DUALIS でした。DUALIS で図書館について知り、図書館に関わる職業に就きたいと強く思うようになっていました。

1年目に受験した司書採用試験は国立大学法人、国立国会図書館、公共図書館では鹿児島県から東京都までの地域で日程があうものを受験していました。結果は惨敗でした。司書合格体験記を書くのが恥ずかしいくらい不合格を取っていました。とりあえずその年は大学の2年生からアルバイトをしていた京都市中央図書館で臨時職員としてお世話になることになりました。次の年もかなり多く受験し、かなり不合格通知をもらい最終的に平成28年3月に京都府立図書館に内定をいただきました。無職1か月前、ギリギリでしたね。

どのように勉強していたかということ、教養試験は必須なのでスーパー過去と呼ばれる『スーパー過去問ゼミ』の教養分野だけを購入し何周もしていました。数的処理が苦手だったので数的処理だけは参考書を別に購入し、ひたすら問題を解いて問題の解き方を暗記していました。教養試験は市販の公務員試験対策本で通ると思います。専門試験は『図書館学基礎資料 第11版』を中心に勉強していました。ちなみに2016年に『図書館情報学基礎資料』というタイトルになっています。たいていの公共図書館の専門試験ならこの図書で通っていました。司書採用試験の情報集めは「公共図書館（公務員）・国立大学図書館の司書になる！」というサイトからしていました。他に DUALIS のメーリスから情報を受け取っていました。

面接についてですが、自分とはとにかく苦手なので苦戦しました。よく他の人に面接を見てもらうようにしていました。話す内容も暗記して面接に臨んでいました。集団面接などでは5分くらいしかなく、苦手な自分は「えーと」とか「あー」が多くなったので暗記してよどみなく話せるよう練習していました。あとは場慣れです。また面接について重要なのは「なぜ数ある図書館の中でこの図書館を志望するのか」、「図書館司書として今後どのようにして働きたいのか」ということをしっかり話すことが重要だと感じています。自分はこの部分が弱いために大量の不合格通知をもらったような気がします。「今後どのようにして働きたいのか」は市立図書館、都道府県立図書館の役割について大学の授業で学んだことをまとめる必要が出てくると思います。さらに都道府県立図書館の採用試験は採用後、学校図書館への異動の可能性もあるので面接や論文試験で学校図書館について聞かれることがあります。学校図書館についてもまとめる必要が出てくるかもしれません。

働き始めてからは「都道府県立図書館不要論」や司書の専門性について悩んだりしています。レファレンスについても勉強不足を感じて焦る日々です。ただ図書館内、図書館外と毎日面白い方々に出会えるので楽しく過ごしています。司書合格体験記を書きましたがあまり合格の理由を書くことができていません。図書館関係の仕事を目指す人にとって何か少しでも参考になればうれしいです。

参考

・『図書館学基礎資料 第11版』今 まど子／編著 樹村房 2013

- ・『図書館情報学基礎資料』今 まど子・小山 憲司／編著 樹村房 2016
- ・「公共図書館（公務員）・国立大学図書館の司書になる！」
<http://bookserial.seesaa.net/>（2017年1月30日確認）